

実用化 事例

共同研究 北茨城蛙目粘土による耐熱陶器の開発

【共同研究先】

北茨城市商工会

研究の目的

北茨城市で産出する蛙目粘土は鉄分を有し耐火度が高く可塑性が低いという特徴があるが、生産システムが未整備である為あまり利用されていない。これらの特徴を活かした耐熱陶器の安全性確認の為の研究を行うと共に、普及化の為の生産体制や技術指導などを行った。

成果の概要

実用化にあたっては安全性を確保する為の耐久試験などを実施し、窯元への技術指導を実施した。地域の特性を考え鮫鱈食材を組み合わせた試作が「ふるさと小包グランプリ」で最優秀賞を得るなど高い評価を得ることができ、天心焼の目玉商品として地元の窯元で800円位の小品から～1万円を超える高級品まで販売を開始している。また実用化にあたって課題であった原料の安定供給を行うため、地元の窯元で構成する任意団体による生産体制を整備し1体2000円弱で販売されている。

現在耐熱製品と原料は北茨城市にある天心焼郷土物産センターなどで扱っている。



原土



精製作業（フィルタープレス）



脱水した粘土（ケーキ）



材料の調合・混練



脱気混練



サイズに合わせて切断



梱包



保管



製品展示

基礎となった事業

平成20年度 オンリーワン技術開発支援事業（共同研究）

担当部門

窯業指導所

主任

常世田 茂

TEL : 0296-72-0316